

# 万華鏡

甲府商業高校 図書室  
令和3年9月14日  
NO. 4

夏休みも終わり、秋の気配が感じられる季節となりました。  
秋は様々な形で私達の生活に実りを与えてくれます。

「芸術の秋」、「スポーツの秋」、そして「読書の秋」等と・・・  
図書室には、新刊本が多数入りました。何気なく手にとった一冊が人生の指針となる、そんな一冊と出会えるかもしれません。  
この機会に読書を楽しんでほしいと思います。



## 新着本紹介

### 『貝に続く場所にて』

石沢麻依／著 講談社

書籍紹介：第165回芥川賞受賞作

ドイツの学術都市に暮らす私の元に、2011年3月の震災で行方不明になったはずの友人が現れる。コロナ禍が影を落とす異国の街に、9年前の光景が重なり合い…。静謐な祈りをこめて描く鎮魂の物語。

### 『彼岸花が咲く島』

李琴峰／著 文藝春秋

書籍紹介：第165回芥川賞受賞作

彼岸花が咲き乱れる砂浜に倒れ、記憶を失っていた少女は、海の向こうから来たので宇実と名付けられた。ノロと呼ばれる指導者が統治し、男女が違う言葉を学ぶ島だった。宇実は島の少女・游娜と少年・拓慈と、この島の深い歴史に導かれていく。

### 『テスカトリボカ』

佐藤究／著 KADOKAWA

書籍紹介：第165回直木賞受賞作

川崎に生まれ育った天涯孤独の少年・土方コシモはバルミロと出会い、その才能を見出され、知らぬ間に彼らの犯罪に巻きこまれていく——。海を越えて交錯する運命の背後に、滅亡した王国〈アステカ〉の恐るべき神の影がちらつく。人間は暴力から逃れられるのか。心臓密売人の恐怖がやってくる。

### 『星落ちて、なお』

澤田瞳子／著 文藝春秋

書籍紹介：第165回直木賞受賞作

不世出の絵師、河鍋曉斎が死に、これまで家の中で辛うじて保たれていた均衡が崩れた。一門の行末は、娘・とよ（暁翠）の双肩にかかっているのだが…。激動の時代を生き抜いた女絵師の一代記。

### 『リボルバー』

原田マハ／著 幻冬舎

書籍紹介：「ファン・ゴッホは、ほんとうにピストル自殺をしたのか？」

「——殺されたんじゃないのか？ ……あのリボルバーで、撃ち抜かれて。」  
ゴッホの胸を撃ち抜いたのは誰だ？オークション会社に持ち込まれた一丁の錆びたリボルバー。「ゴッホの自殺」。アート史上最大のミステリーに迫る傑作長編誕生。

### 『伝える技術はこうみがけ！』

新庄秀規・藤山純久／著 中央公論新社

書籍紹介：デジタル全盛期の今の時代に、子ども・若者向け新聞が売れているのはなぜか。

創刊時から編集に携わる現役記者が、「わかりやすく」「面白く」伝えるにはどうするか。目を引くキーワードを散りばめながら、現場で培ったノウハウを公開。

### 『オードリ・ターンの思考』

近藤弥生子／著 ブックマン社

書籍紹介：オードリー氏が今、台湾政府の中で推進している「ソーシャル・イノベーション」を軸に仕事のしかた、コロナ対策、アイデアを行動に移す方法、人との繋がり方、おすすめデジタルツール、これからの社会を良くするために何ができるか——?等々を縦横無尽に、時にはユーモアを織り交ぜながら語っている。

### 『10代のための読書地図』

本の雑誌社編集部／著 本の雑誌社

書籍紹介：「朝の読書」「夏の読書感想文」対応の、10代におすすめするベスト100座談会や、ジャンル別ブックガイドを収録。全国書店員がおすすめする10代に読んでほしい本&読んでおきたかったと後悔した本なども紹介。

- ★『ひらいて』 綿矢りさ著 新潮社
- ★『すかんウイルス』 武村政春著 技術評論社
- ★『ぼくのお父さん』 矢部太郎著 新潮社
- ★『戦争というもの』 半藤一利著 PHP 研究所
- ★『美女の魔界退治』 林真理子著 マガジンハウス
- ★『ひきなみ』 千早菫著 KADOKAWA
- ★『おれたちの歌をうたえ』 呉勝浩著 文藝春秋
- ★『キッチン』 吉本ばなな著 角川書店
- ★『他者の靴を磨く』 ブレィティみかこ著 紀伊国屋書店
- ★『さがしもの』 角田光代著 新潮社
- ★『タギーへの手紙』 E・キューブラー・ロス著 佼成出版社
- ★『Day To Day』 講談社編 講談社
- ★『エンド・オブ・ライフ』 佐々涼子著 集英社インターナショナル
- ★『桃太郎のきびだんごは経費で落ちるのか？』 高橋創著 ダイヤモンド社 など…



ここで紹介しているものは、ほんの一部です。  
お気に入りの一冊をさがしに、図書室に来てみて下さいね！

